



大町山岳博物館

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL 0261-23-0211 FAX 0261-21-2133
E-mail:sangaku@omachi-tanpaku.com
URL:https://www.omachi-tanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館の命の支えにより博物館が運営しています。

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

9月号

第 61 卷 第 8 号
2016 年

無料
Free

も
く
じ

今月の一枚	1 ページ
・さんばく こども夏期だいがく～タケ動物探検隊～	
イベントのご案内	2～3 ページ
・鳴鳥～四季を讃う神の鳥～高橋広平等真庭	
・ライチョウワサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」	
博物館のひろば	3～4 ページ
・市立大町山岳博物館講師員（講師隊）の委嘱・長野県大町支店「山の日」記念品一展	
・日本の動物園水族館協会中華プロック動物写生大会表彰式・出展講座 青木湖キャンプ	
・カクテキ雪渓（氷河）学術調査団報告会及び企画展示ミュージアムトーク	
・紫部観光ホテル奇付企画室・高山植物にかかる現地調査	
・各種教員研修の受け入れ	
・博物館実習	



博物館施設案内
はこちら



夜行性動物の秘密に迫る！

さんばく こども夏期だいがく ～タケ動物探検隊～

佐藤 真

山岳博物館で平成23年から毎年開催している「さんばく こども夏期だいがく」は、夏休み期間中の小学生を対象とした催しです。今年は8月6日（土）に夜行性の動物たちに焦点を当てて解説を行い、付属園を探検しながら動物の夜の行動を観察するという内容で実施しました。

まず初めに付属園で飼育している動物たちの特徴についてクイズを出題しながら解説を行いました。クイズは、表面に動物たちの写真、裏面にその動物の特徴について記した「動物カード」を使しながら、裏面を見ない状態でして行いました。正解不正解に関わらず、どのお子さんも元気にして手を挙げてクイズに挑戦していただきました。

次に、2階常設展示室ではフクロウの剥製に触ってもらしながら、フクロウが夜に獲物を捕まえるための羽の構造や体の秘密について解説しました。剥製に触れる機会はあまりな

いと思いますので、良い経験と学習の場になったのではないかでしょうか。

最後には付属園を探検しながら、飼育動物の夜の行動を観察しました。普段見せている昼の姿とは異なり、夜に特異的な行動を見せる動物たちを題材に、なぜ星と行動が違うのか、夜行性であることの意義についても理解を深めていただけたことができたと思います。

今回の「こども夏期だいがく」では専門的な用語を織り交ぜながら解説しましたが、甘い意見・質問も多く挙がり、動物について日頃から高い関心をもっていることが窺えました。今後も座学だけでは身につかない体験的な学習の場として活用いただけるよう、工夫をこらして実施してまいりたいと思います。

（市立大町山岳博物館 学芸員）

イベントのご案内

山岳博物館 市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日（※祝日の場合は）とその前後の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。（これらの日については、大町市役所以外の振替休日は団体割引料金でご覧いただけます。）9月は17日（土）と18（日）です。

企画展 山市立大町岳博物館

-創立 1951 年-



雷鳥 ~四季を纏う神の鳥~ 高橋広平写真展 2016.9.3(sat)~11.27(sun)

…それは、「一目惚れ」でした

人は何かを本気で好きになった時、生き方そのものを変えるを得ないことがある。それまでの自分を変えようとした始めた登山で劇的に「雷鳥」と出会い、一目惚れをし、彼らを知るために写真を始め、それまで勤めていた会社を辞め、彼らの棲む北アルプス山中で働くことになった私がまさに良い例です。

その豊多き生態を一つひとつも解き、知っていく程に想いは深いものになっていきました。オスは体を張ってメスを守り、メスは命を懸けてヒナを育てる、その苦みは人間臭く、愛おしい。おそらく彼らへの想いが、この叶うことのない片想いが、私を吹雪荒れ狂う嚴冬期の高山に登らせ、シャッターを切らせるのでしょうか。

「人は出会い、知ることで変わることができる。」

この言葉は、私の中の「願い」や「祈り」のようなものです。彼らを知り、彼らを取り巻く環境や生態系に関心を持ち、それまで興味のなかった花や蝶をはじめとする様々な動植物を愛するようになったように、私の写す彼らの姿が誰かの「変化」の一助になれば、それは表現者として大変幸せなことだと思います。

雷鳥写真家 高橋 広平

関連イベント

企画展 ミュージアムトーク

作者の高橋広平氏が企画展写真の解説を通してライチョウの魅力をみなさんに伝えます。

■日 時 9月3日（土）、11月3日（木・祝）

各日2回（午前10時～、午後2時～）各40分

■会 場 山岳博物館 特別展示室

■参加費 無料（ただし、入館料が必要）

■申し込み 不要。直接、会場にお越しください。

対談 「写真家の視点・研究者の視点から ライチョウの魅力に迫る」

ライチョウにカメラのレンズを向けてきた写真家と、科学的な目でライチョウを追いかけてきた研究者が、それぞれの立場からライチョウについて語ります。

■主 催 市立大町山岳博物館
■共 催 大町山岳博物館友の会

■日 時 平成28年9月11日（日）午後1時30分～3時

■場 所 市立大町山岳博物館 講堂

■費 用 無料（ただし、企画展をご覧いただくには入館料が必要です。）

大人400円、高校生300円、小中学生200円

■出演者 • 高橋広平 氏 雷鳥写真家

• 小林 萬 氏 鳥類研究者

ライチョウサミット「第17回ライチョウ会議長野大会」

— ライチョウ保護から山岳環境保全を考える —

～ライチョウ保護とその生息環境保全に向けた連携元年～

■開催趣旨

豊かな山岳環境の象徴でもあるライチョウを取り巻く環境は年々悪化しており、環境省版レッドリストでも絶滅の危険度が高まるなど、その保護対策に尽力を挙げて対応すべき時期に来ています。

そこで本大会は、これまで課題となっていたライチョウ保護関係の行政機関・民間・有識者等による連携を新たに模索する機会とし、あわせてその取り組みを広く全国に発信します。

■主 催 ライチョウサミット「第17回ライチョウ会議長野大会」実行委員会（長野県・大町市・大町市教育委員会・松本市・市立大町山岳博物館・長野市茶臼山動物園・飯田市立動物園）※実行委員会事務局（山岳博物館内）

■開催日 平成28年10月15日（土）・16日（日）

■会 場 大町市文化会館、サン・アルプス大町、大町山岳博物館

■主な内容

◎エクスカーション

日時 10月15日（土）9:30～11:30

大町山岳博物館でライチョウ関連現地見学（参加無料）。

※事前申込（定員40人）…10月14日（金）までに山岳博物館へ氏名・住所・電話番号をFAXまたはEメールで。

FAX：0261-21-2133 E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

◎ライチョウサミットシンポジウム

日時 10月15日（土）13:00～16:30（12:30～アトラクション）

大町市文化会館で、アトラクション（遠澤かよミニライブ）、リレートーク（小林篤氏による「ライチョウってどんな鳥？」、増澤武弘氏による「ライチョウが生き続ける山岳環境とその保全について」、三四六氏による「ライチョウを守るために未来へのメッセージ」）、バトルディスカッション（テーマ「ライチョウ保護から山岳環境保全を考える」）ほか（参加無料・申込不要）。

◎専門家会議

日時 10月16日（日）10:00～16:00

サン・アルプス大町で、研究者によるライチョウ生息状況の調査結果や、動物園での飼育経過などについて、専門家が最新報告を行い、情報共有・意見交換します。一般の方も参加できます（参加無料・申込不要）。

市立大町山岳博物館嘱託員(獣医師)の委嘱

平成28年6月24日（金）実施



平成28年6月1日付にて、市立大町山岳博物館の嘱託員（獣医）に安曇野市豊科田沢「どうぶつの病院」の院長で、長野県の家畜保健衛生所や畜産試験場に勤務された職歴をお持ちの望月明義氏【写真左】をご委嘱申し上げました。

望月氏はかつて大町山岳博物館でのニホンライチョウ飼育の折には、何例もの症例に携わっていました。

今後は、嘱託獣医師としてニホンライチョウ飼育を始め、動物飼育に関して、専門的な見地から様々なご指導をいただくこととなります。

長野銀行大町支店

「山の日」記念ロビー展

平成28年6月27日（月）～8月31日（水）開催



今年施行された国民の祝日「山の日」を記念し、山をテーマとするロビー展を長野銀行大町支店が同店舗内で開催しました。その展示資料として、山岳博物館から各種資料の提供を行いました。

ロビー展では、当館が収蔵する山岳関係資料の中から、大町ゆかりの山岳写真家・手塚順一郎（明治17年～昭和7年）が撮影したモノクロームの山岳写真をパネル展示。また、当館制作による北アルプスの魅力や同館の活動を紹介する映像を上映。より広い方に、山の雰囲気をお楽しみいただく機会となりました。

日本動物園水族館協会

中部ブロック動物写生大会 表彰式

平成28年7月3（日）実施



6月18日（土）～7月3日（日）開催の「どうぶつ写生画展（日本動物園水族館協会中部ブロック動物園・水族館写生大会参加）」のなかで、長野県知事賞・長野県教育長賞・日本動物園水族館協会会長賞・大町市長賞・大町市教育長賞・山岳博物館長賞・金賞・銀賞・銅賞の各受賞者23人の表彰式が行われました。

この写生大会を通して、動物をよく観察していただき、その特徴を絵に描き出すことで、子どもから保護者までの多くの方に、動物への关心を深めていただくことができたと思います。

博物館のひろば

出張講座 青木湖キャンプ・松川小学校

平成28年7月5日(火)実施



この3年間、市内の小学校が実施している青木湖や木崎湖キャンプに出向き、出張講座を開催してそれぞれの湖周辺の歴史や自然に関する学習支援を行う機会がありました。今年は隣村の松川小学校の5年生(85人)の皆さんが実施した青木湖キャンプに初めての出張講座として参加をさせていただきました。

市内にはたくさんの歴史や遺跡、自然について学習する場所がありますので、市内外の小中学校、あるいは高校での野外活動やキャンプなどに、出来るだけ学級員が出向いて、学習の支援ができるとを考えていますので、お気軽に博物館へご相談ください。

高山植物の生活史にかかる現地調査

7月14日(木)～16日(土)針ノ木岳

7月19日(火)～22日(金)鳥帽子岳 実施



今年も博物館が実施している「高山植物の生活史研究」に伴い、大町山岳博物館友の会員2人の方に現地調査にご協力いただきました。本調査を通して、ヨツバシオガマおよびイワギキョウ、ミヤマコメグサなどの花が、どのように送粉しているのか推測できるデータを得ることができました。また、調査には針ノ木小屋の亞森堯氏、鳥帽子小屋の上條文香氏をはじめ、両小屋のスタッフの皆さんに格別なるご配慮を賜りました。

ありがとうございました。

カクネリ雪渓(氷河) 学術調査団報告会

及び企画展ミュージアムトーク

平成28年7月10日(日)実施



「カクネリ雪渓(氷河) 学術調査団」(小坂共榮園長)がサン・アルプス大町で報告会を行ない、130人が参加しました。

報告会では立山カルデラ砂防博物館の飯田肇氏と福井幸太郎氏から、昨年行われた氷体の流动観測結果などについて、信州大学の鈴木啓助氏からはカクネリの気象の特性について、信州大学の原山智氏からは、今年6月の調査で得られた地質の報告がありました。

その後、山岳博物館で開催中の企画展「雁島槍ヶ岳カクネリ 氷河への道のり」でミュージアムトークを開催し、調査に携わった研究者から解説をしていただきました。

黒部観光ホテル寄付金受領

平成28年7月13日(水)実施



大町温泉郷の黒部観光ホテルは大町山岳博物館で始まったニホンライチヨウの飼育に役立ててほしいと、現金約2万円を大町市教育委員会に寄付していただきました。

同ホテルでは昨年の6月から売り上げの一部をライチヨウのための寄付金に充てる宿泊プランを販売したり、フロントに募金箱を置いたりして保全の呼びかけをしてきました。

これらの支援活動は、本年度から大町温泉郷全体に広がり、13館すべてに募金箱を設置してご協力いただけたこととなりました。

博物館実習

平成28年8月3日(水)～7日(日)実施



博物館実習は、博物館法に基づき学芸員の有資格者となるために履修すべき単位のひとつで、山岳博物館では毎年実習生の受け入れを行っています。

今年は3大学から4人の学生を受け入れ、資料の収集保管や調査研究の実態のほか、教育普及事業の体験として小学生を対象としたイベントの補助を行っていただきました。イベントでは、博物館実習と合同で、博物館の業務体験をしていただきました。

こうした先生による博物館での研修が、今後のさらなる学社連携・融合事業へつながっていくことを期待しています。

編集・発行



〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館 編集責任者 馬羽華人

TEL.0261-22-0211 FAX.0261-21-2133

E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL:https://www.omachi-sanpaku.com

9月号

第61巻 第8号
2016年

発行日 平成28年8月25日

印 刷 有限会社北辰印刷

〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1

TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010